

User's Report ②

災害時に備え医療機関を結ぶネットワークを整備

災害時医療情報網で活躍する mcAccess e

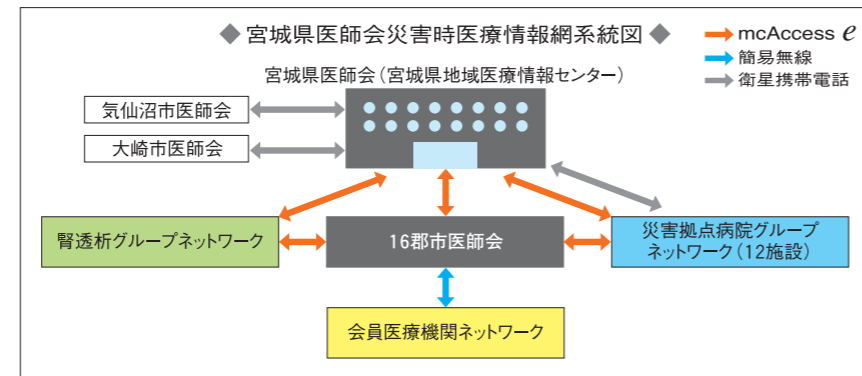
社団法人 宮城県医師会 様

- 所在地/宮城県仙台市青葉区大手町1番5号
- TEL/022-227-1591 FAX/022-266-1480
- mcAccess e (デジタルMCA) 導入時期/2005年3月
- mcAccess (アナログMCA) 導入時期/1993年7月
- 契約台数/mcAccess e 79局 mcAccess 27局



医師会が県内医療機関を結ぶ災害時医療情報網を構築

宮城県は、2004年度救急関連施策の一環として災害時救急医療体制整備推進事業を掲げ、災害時における医療機関の通信手段の整備に対する財政支援を盛り込みました。これを受けて、宮城県医師会は救急災害時情報伝達網案を作成し、2005年3月、郡市医師会との間に mcAccess e を設置、ほぼ同時期に腎透析医療機関、さらにその後災害拠点病院が加わり、県内医療機関を結ぶ無線系による情報通信網を構築。mcAccess e のサービスエリア外には簡易無線、衛星携帯電話を配備しました。



宮城県が初期導入費用の1/2を補助

宮城県医師会救急災害時情報伝達網の立ち上げ構築に携わった宮城県医師会総務部長の福田正俊さんに mcAccess e 導入の経緯等について伺いました。「宮城県では2005年に『三陸南地震』『宮城県北部連続地震』と大きな地震が相次ぎましたが、このとき問題になったのがNTT回線、携帯電話の輻輳により、災害情報の収集や情報伝達ができなかったことです。解決策を検討していく中で、宮城県医師会健康センターが血液検体の集配業務の連絡用に活用していた mcAccess (アナログMCA) が目に留まりました。同時期に東北移動無線センターが mcAccess e (デジタルMCA) のサービスを始めた



総務部長の福田正俊さん。

2008年6月14日に発生した『岩手・宮城内陸地震』は山塊の大崩落、土石流による旅館の流失など、テレビ画面を通して自然の驚異をまざまざと見せつけました。1978(昭和53)年6月12日の『宮城県沖地震(M7.4)』から30年。政府の地震調査委員会は、30年以内に99%の確率で『宮城県沖地震』が発生すると予想しています。

地震への備えについては、自治体、医療機関など各方面で様々な取組みが進められています。災害時にいち早く現場に駆けつけ治療に当たる医師の皆さん、負傷した方が搬送される病院、医療関係者相互の連携を円滑に行うために宮城県医師会は、情報収集伝達手段に mcAccess e を導入。災害時に備えた通信訓練も怠りなく、いざという時に備えています。今回は社団法人 宮城県医師会様を訪ね、導入までの経緯や今後の取組みなどについて伺いました。



ポータブル型 mcAccess e



宮城県医師会館。災害時医療情報網の本部として mcAccess e が設置されています。

こと、整備に当たり初期費用の1/2を県から負担してもらえたことがネットワークの構築に弾みをつけました」。さらに、「広域をカバーできる mcAccess e の選択に反論はなかったですね。医師の皆さんは災害時の情報確保の必要性を十分認識されていたから」ともお話いただきました。

現在、宮城県医師会は、郡市医師会、腎透析医療機関、災害拠点病院と3つのグループに合計79局の mcAccess e を配備しており、宮城県医師会が策定した災害時マニュアルに従って、訓練を兼ねた通話試験を行い災害に備えています。

「郡市医師会と災害拠点病院ではあくまで災害時緊急用の位置付けですが、腎透析医療機関では日常の施設間の連絡にも mcAccess e を使用しています」と語るのは宮城県医師会総務部の佐藤林太郎さん。「災害時にはグループ通信から一斉通信に切り替えることで、医療現場はもとより、被災情報をリアルタイムで医療関係者が共有できることが大きい。同じ通信内容を同時に聴いてもらうことで情報の重みが格段に違う」と医療関係者からも高い評価を得ているそうです。

災害時に有効な医療通信システムとして完成度の向上へ

福田総務部長からは、「mcAccess e のサービスエリア外には、簡易無線や衛星携帯電話を配備していることから、情報が一度に共有できない。ぜひ、県内全域をカバーしてほしい」との要望が出されました。また、課題としては「無線機の取り扱いに不慣れな先生もいるため、もう少し使い慣れることが必要」。さらに「郡市医師会事務局には固定式の mcAccess e を配備したため、災害時に持ち出しができない。『岩手・宮城内陸地震』も土曜日に発生して、被災地である肝心の栗原市と連絡がつかなかった。そこで機動性のある携帯型 mcAccess e の導入も考えているところです」。話の締めくくりに「災害時の情報伝達手段として mcAccess e は極めて有用だと実感しています」との言葉をいただきました。

災害時のすみやかな医療活動実践へ
医師会主導で構築した情報通信ネットワーク



「こちら、メリット5です。どうぞ」。医師会の通話試験は月2回行われている。総務部の佐藤林太郎さん。

◆ 宮城県総合防災訓練 ◆

2008年9月1日、宮城県総合防災訓練が宮城県美里町で行われ、DMAT (災害派遣医療チーム) が訓練に参加、宮城県医師会の整備したポータブル型の mcAccess e を活用。訓練では約40km離れた宮城県内に医薬品を要請するなど、各部署と円滑に交信していました。

大崎市民病院救命救急センター長の大庭先生は「mcAccess e は緊急時に非常に有効なツールである」と話されていました。

DMAT (災害派遣医療チーム) 応急救護訓練に参加



大崎市民病院救命救急センター長の大庭先生。



県保健福祉部の櫻井医療政策専門監。